

第 4 章

施策No.

4-2

市街地の整備

▼政策目標

4 人々が集う魅力ある便利で安全なうわじま

▼施策

4-1 計画的な土地利用の推進

4-2 市街地の整備

4-3 景観の形成

4-4 住宅施策の推進

4-5 道路・交通網、港湾の整備

4-6 情報化の推進

▼施策の内容

4-2-1 市街地整備体制の確立

P168

▼主要事業

中心市街地活性化基本計画策定事業

4-2-2 適正な市街地形成の誘導

P168

都市計画事業



2 市街地の整備

施策の方針

人々が集う魅力ある市街地の再生と創造に向け、都市計画マスタープランに基づき、また中心市街地活性化基本計画の策定のもと、計画的な市街地整備を進めます。

現状と課題

良好な市街地の形成は、人々の定住と交流を促進するとともに、活力ある産業活動を支える重要な要素であり、地域の発展に欠かせないものです。

本市では、健康で文化的な市民生活と機能的な都市活動を確保するため、南予レクリエーション都市計画として、宇和島地区及び津島地区において都市計画区域及び用途地域が指定されています。

本市ではこれまで、良好な市街地環境づくりに努めてきましたが、社会・経済情勢の変化に伴い、市街地の空洞化や商店街の衰退、未利用地の増加といった問題が表面化しており、四国西南地域の中核拠点都市としての多様な都市機能の維持・強化、快適で安全な居住空間の創出等に向けた計画的な市街地整備が課題となっています。

このため、都市計画マスタープランに基づき、また中心市街地活性化基本計画の策定のもと、全市的な都市づくり体制の確立を図りながら、土地の高度利用や都市施設の整備を進め、人々が集う魅力ある市街地の再生と創造を進めていく必要があります。

● 施策の内容

4-2-1 市街地整備体制の確立

都市計画マスタープランに基づき、中心市街地の整備方針を定めた中心市街地活性化基本計画の策定を図るとともに、関連部局、関係機関・団体との連携強化や市民への都市計画に関する啓発等を通じ、全市的な都市づくり体制の確立及び気運の醸成を図ります。

主要事業

中心市街地活性化基本計画策定事業

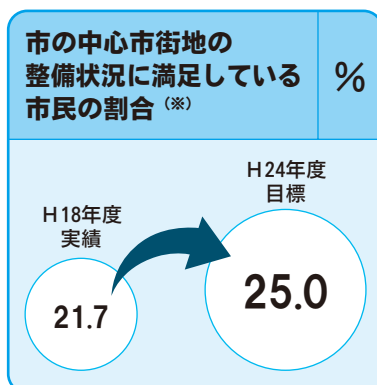
4-2-2 適正な市街地形成の誘導

都市計画マスタープラン及び中心市街地活性化基本計画に基づき、都市計画法に基づく適正な市街地の形成を誘導し、中心市街地における商業・業務機能をはじめとする多様な都市拠点機能の維持・充実、快適で安全な居住空間の創出等に努めるとともに、その他の市街地においても、その役割や用途に応じた都市機能の充実に努めます。

主要事業

都市計画事業

● 成果指標



注) (※) の市民の割合 (実績) は、平成18年6月に行った住民アンケート調査の結果による。



ひでむねこう
秀宗公

はんそ

藩祖のお墓は

はか

りゅうげざん

龍華山

龍華山



伊達秀宗は有名な独眼龍伊達政宗の長男で、徳川幕府の命によって元和元(1615)年3月、10万石の大名として宇和島に入国したのが、宇和島伊達家の始まりです。秀宗は明暦4(1658)年6月、江戸で亡くなり、白雲山龍泉寺に葬られました。龍泉寺はのちに龍華山等覚寺と改称されました。秀宗の後、歴代の藩主や夫人のお墓の多くは、野川の龍華山と宇和津町の金剛山大隆寺にあります。

「新宇和島かるた」㊦㊧ → P170



ぶ ざ え もん いっ き
武左衛門一揆

しず
鎮めた

あん どう つぐ あき
安藤継明

安藤継明



寛政2（1790）年、吉田藩は豪商法華津屋に紙の専売をさせることで財政の建て直しを図りました。領民は藩と法華津屋の強引なやり方に抵抗し、法華津屋を打ち壊して藩政を改めさせようと一揆を起こします。一揆の人々は宇和島藩に訴えようと、八幡河原に集まりました。吉田藩家老安藤継明は河原に出向き、切腹して騒動を鎮めました。継明はやがて安藤神社に祀られ、「安藤さま」として今も崇敬されています。なお、武左衛門は吉田領日吉村の一揆のリーダー的存在でした。



へん ろ がさ
遍路笠

かい どう
コスモス街道

ぶつ もく じ
佛木寺

佛木寺



三間町則にある佛木寺は、四国霊場42番札所です。大同2（807）年、弘法大師によって開創され、楠の大木で本尊の大日如来像を刻んだことから、佛木寺と名づけられました。41番札所の龍光寺から佛木寺へと続く遍路道は、別名「花街道」とも呼ばれ、春はチューリップ、夏はサルビア、秋はコスモスと植え替えられ、四季折々に姿を変えます。真っすぐに伸びる花街道は、目にもすがすがしく、道行くお遍路さんの心を癒します。